

ラジオ放送「福音の光」説教

「あなたはどこにいるのか」

創世記 3 章 9 節

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

「神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。『あなたはどこにいるのか。』」

皆さん、おはようございます。お元気にお目覚めでしょうか。毎日の生活の中で誰かに個人的に呼びかけられ、声をかけられることは嬉しいことです。家族からは勿論、友達や同僚からでも話しかけられると心が和みますね。それにまさって天地万物を創造され、今も生きておられる天の父であられる神様から、私たち一人ひとりに「あなたはどこにいるのか」と呼びかけられている事を是非知って頂きたいのです。

この招きの言葉を最初に聞いた人は人類の始祖といわれるアダムとエバです。この二人はエデンの園において、父なる神様と交わり、園に生えている果樹を食べて何の不自由もなく生きていたのです。父なる神様はエデンの園にあるどの木からも自由に取って食べても良いが、園の中央にある木だけからは取って食べてはならないと命じられておられたのです。それにも関わらず、エバが蛇に惑わされて「禁断の木の実」を取って食べ、夫のアダムにも与え、共に食べたのです。すると二人の目が開け、自分たちが裸であることに気がつき、無花果の葉で裸の恥を覆ったのです。人間が神様に背いた結果、夫と妻との交わりに隠し事が起こったのです。人間関係の破れは、天の父である神様との関係の破れに繋がっていることを是非理解して頂きたいのです。

更に、神様が園の中を歩かれる音を聞いた時、二人は「神である主の御顔を避けて、園の木の中に身を隠した」のです。神様から逃げ隠れし、神様との交わりを嫌う結果となったのです。人間の不幸の始まりがここにあるのです。天地万物を造り、私たち一人ひとりに命を授けて下さった父なる神様との関係が破れたことが致命的になったのです。しかし神様は、ご自分を避けて逃げ隠れする人間に「あなたはどこにいるのか」と尋ねて、交わりの回復を求めておられるのです。

アダムは神様に隠れた理由を問われた時、「禁断の木の実」を取って食べたことには触れなかったのです。神様に再度問われた時、「わたしのそばにいますようにとあなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は取って食べたのです」と答えたのです。父なる神様に責任を転嫁し、妻にもその責任をなすりつけたのです。神様はエバに「あなたは何ということをしたの

か」と断腸の思いで尋ねられると、エバは「蛇が私を惑わしたのです。それで私は食べました」と答え、蛇に責任を転嫁したのです。自分が食べたことの責任を自分で取らないで、他人のせいにする生き方がアダムとエバから始まったのです。その罪の性質はすべての人間に、今日の私たちにもを受け継がれていることを心に留めなければなりません。

私たちは神様との関係において「神様、どうか向こうを向いておいて下さい」という関係になっていないでしょうか。また人と人との関係においても、自分のしたことの責任を他人に押しつけて、自分は知らない顔をして責任逃れをしていることはないでしょうか。そのような私たちに「あなたはどこにいるのか」と父なる神様が呼びかけておられるのです。結局、人間は自分の罪の結果エデンの園を追われ、さまよう身となったのです。

けれども父なる神様は、裸の二人のために動物を殺して「皮の着物」を着せて、それぞれの裸の恥を覆って下さったのです。これは神様が、イエス・キリスト様の十字架の功しによって、私たちの背きを赦し、受け入れて下さる御方であることの印なのです。私たちがどの様な罪を犯していたとしても、神様の御前に跪いて罪を悔い改め、この主イエス・キリスト様を信じる時、父なる神様は一人ひとりの罪を許して下さるのです。皆さん、お一人おひとり、罪を許されて真実な平安を頂こうではありませんか。

今日、6月30日は私の父が天に召された記念日です。父は幼い時に教会学校に通っていたのですが、就職し、結婚して6人の子どもを抱え、連帯保証人の責任を負って事業を手放し、戦前戦後の困難な中、波瀾万丈の生涯を送り、転々と彷徨った晩年に「さまよう人々立ち返りて」の賛美歌に心惹かれ、幼い時を思い出してキリスト教会に導かれたのです。そしてイエス・キリスト様を信じて天の父なる神様の許に立ち帰り、平安と希望を与えられて生涯を全とうしたのです。

今朝あなたにも「あなたは何処にいるのか」「そこで何をしているのか」「わたしの許に立ち返りなさい」と招いていて下さる父なる神様がおられることを是非知って頂きたいと願っております。